

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 北前船寄港地・船主集落

～「諸寄港」まち歩きマップ～

雪の白浜、風待ち・潮待ち港、諸寄。

ええとこだけえ、ゆっくり見て行きなれなあ。

KITAMAE-BUNE

諸寄港は、「枕草子」「古今六帖」「蜻蛉日記」など、古くから和歌にも詠まれた名勝地。そして、江戸時代には北前船の風待ち、潮待ち港。北前船とともに「人・物」が行き交い、全国の多くの文化が混流し、地域の人々にも大きな影響を与えた。そのため諸寄地区からは、多くの文化人や画家を出している。

為世永神社・龍満寺、廻船問屋宅などが、北前船の「風待ち港」として栄えた往時の隆盛を今に伝えている。所要時間二時間三〇分程度の散策コース。探せば、自分だけのインスタ映えスポットが随所にある港町。

廻船問屋「東藤田邸」は、休憩所として一般公開されている。蔵を利用した休憩室でお茶を飲みながら、荒波を越え男たちの夢を紡いだ諸寄の歴史を当主から話を聞くのもいい。

また、お腹が空いたら新温泉町の食文化、諸寄特産の「ちくわ」を出来れば「あごちくわ」を味わいながらの散策もいいかもしれない。



日和山下堤防から見る、諸寄港も絶景。何故、諸寄港が北前船寄港地になったか、謎が解ける。北前船係留杭跡などがある。

諸寄港が一望。日本海に沈む夕日が絶景。おすすめインスタ映えスポット。



荒波を越えた男たちの夢、往古を偲び、俳句でも一句。

雪の白浜、砂浜を裸足で歩いて、日本海を体感。

早朝、威勢のいいセリも見学できる。土曜は休み。

諸寄出身の文化人や画家、諸寄の歴史が良く分かる。ここからスタートするのもいいかもしれない。

※本堂内は、公開されていません。

《モデルコース》

[所要時間：2時間30分]

- ① 諸寄漁港セリ場駐車場 (徒歩：5分)
 - ② 川中町(船宿)地区 (徒歩：3分)
 - ③ 為世永神社(玉垣他) 10分 (徒歩：2分)
 - ④⑤ 山根町(廻船問屋)地区 (徒歩：5分)
 - ⑥ 日和山(和船係留杭跡) (徒歩：10分)
 - ⑦⑧⑨ 下ノ町(廻船問屋)地区 (徒歩：5分)
 - ⑩ 八坂神社社務所(船絵馬) 10分 (徒歩：3分)
 - ⑪ 諸寄基幹集落センター (30分)
 - ⑫ 氏神 八坂神社 (10分) (徒歩：6分)
 - ⑬ 諸寄郵便局 (徒歩：2分)
 - ⑭ 山陰線開通当時のレンガ高架ガード (徒歩：1分)
 - ⑮ 諸谷山 龍満寺 (徒歩：7分)
 - ⑯⑰ 諸寄漁港セリ場駐車場 (徒歩：7分)
- ※JR利用の場合は、逆コースがおすすめ。

《オプション・おすすめポイント》

- ⑱ 城山園地展望台 (車：3分)

時間のある方は、宿泊して、ゆっくり見ていきなれなあ。

発行/新温泉町北前船日本遺産活用推進協議会設立会 新温泉町教育委員会・浜坂先人記念館内
 〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂 1208 TEL/FAX 0796-82-4490
 宿泊等の問合せ先： 浜坂観光協会 ☎0796-82-4580 〒669-6701 兵庫県美方郡新温泉町芦屋 853-1

地元の「ええとこ」は、地元のお屋さんで聞くと一番。気軽にお立ち寄り下さい。

北前船寄港地・船主集落

「諸寄港」まち歩き 解説ガイド

● 日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通して、わが国の文化や伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定する制度。平成二十七年に創設。※国は、二〇二〇年までに、一〇〇件程度を認定する予定。

【日本遺産の認定基準】

- ①地域の歴史的特徴・特色を示すもので、わが国の魅力を伝えるもの。
- ②日本遺産を活かした将来像（ビジョン）が示されていること。
- ③日本遺産を通じた地域活性化の推進体制が整備されていること。

● 「北前船寄港地・船主集落」【テーマ】

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
北前船寄港地・船主集落
※平成三〇年度三八市町を認定
【ストーリー概要】

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられる。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っている。また社寺には奉納された絵馬や模型が残り、京など遠方起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が詠われている。



● 諸寄地区の概要

諸寄地区は、兵庫県の北西部に位置し、日本海に面し、海と山を包含する豊かな自然環境の中、海岸部は世界ジオパークネットワーク「山陰海岸ジオパーク」に指定されている。

古くから因幡（鳥取市）の文化を色濃く影響を受けている。

● 古典にみる諸寄港「雪の白浜」

諸寄を流れる大栃川の上流は、花崗岩質のため、諸寄の浜は白く輝き、古くから「雪の白浜」として名高く、古典・和歌などに多く詠まれている。「枕草子」には、「浜は有度の浜 吹上の浜、長浜 打出の浜 諸寄の浜 千里の浜 広う思ひやらる」と、「古今和歌六帖」や「蜻蛉日記」にも詠われている。また諸寄港には、昭和初期まで諸寄塩谷海岸には、久邇宮家の避暑別荘も建っていた。



● 諸寄港

諸寄港は、江戸時代から北前船の上り下りの風待ち・潮待ち港として栄え、諸寄港からは、海産物や諸寄砥石、飲料水などが船積みされた。

諸寄港は、北前船とともに「人」「物」が行き交い、全国の多くの文化が入ってきて、地域の人々にも大きな影響を与えた。特に諸寄地区からは、明治の歌人前田純孝や異色の日本画家谷角日沙春、社会教育家篠原無然、日本画家で障がい者教育を支援した藤田威、曹洞宗の名僧玄楼和尚など、近隣には稀にみる多くの文化人や画家を輩出している。



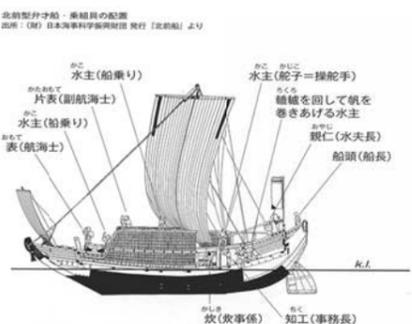
● 諸寄港（湊）

諸寄港は、古地図や航路誌にも記載されている古い港である。「皇国総海岸図（安政二年（一八五）刊）」に「諸寄湊は、湊口が広く奥行きもあり、海底も深い、大きな船が百艘余りも入津出来る。上り船、下り船共に利用できる大きな港である。港の中に入れば、風波の心配はなく、沖禁もぎ出来る。網代より北西方向、順風で諸寄湊」と記されている。



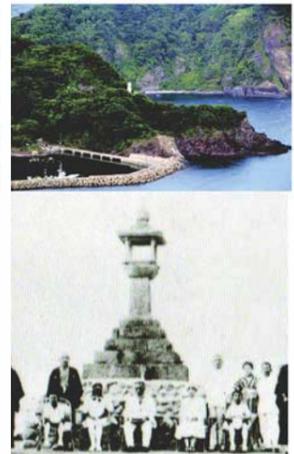
● 北前船（きたまえぶね）

「北前船」は、もともと摂津や瀬戸内の人たちが日本海方面から下関を経由して、瀬戸内・大坂へ廻漕してくる廻船を「北前船」と呼ぶようになった。



● 日和山の常夜灯

為世永神社の西に「日和山」がある。文字通り日和を見る標高四〇〇メートルの山である。昔、北前船の乗組員たちが日和を見た日和山は、現在「諸寄港日和山灯台」「船害航照射灯」「石ノ前照射灯」が設置されており、沖を航行する船舶の道しるべとなっている。現在、日和山には、「常燈」と「諸廻船問屋中」と刻まれた常夜灯の一部が残る。



● 諸寄港（湊）

為世永神社の創建年や由緒は不明であるが、寛政（一七八九—一八〇一）年間に再建した棟札があるといわれている。明治二十六（一八九三）の社寺再明帳には「伊弉諾尊・伊弉冉尊・塩土翁尊」となっている。塩土翁尊は、海幸彦・山幸彦神話

に登場する塩路・海路をつかさどる海の神である。明治十七年に玉垣等の改修工事が行われており、「為世永神社御玉垣寄付記」が残されている。



● 為世永神社・玉垣・灯籠・狛犬

為世永神社の階段の両脇に一对の灯籠と境内を囲むように玉垣がある。地元や諸国の廻船問屋の寄進によるものである。石灯籠には、「越後直江津 信濃屋増五郎」「防州 平生浜水場港 松井音三郎」「明治一八（一八五）六月吉日」と刻まれており、境内の灯籠、玉垣、狛犬は、この時期に造営されたことがわかる。近隣では因幡、遠くは大崎・陸奥・但馬・伯州・越前・讃州などの玉垣が残っている。狛犬の形は、出雲型の狛犬で、日本海沿岸地域には、出雲産来待石の狛犬が多く奉納されている。諸寄地区には、北前船によって運ばれた石州瓦で葺かれた廻船問屋や福井県産の笏谷石の基礎石などの家を見ることができ



● 為世永神社・例祭

為世永神社の例祭日は、毎年七月一三日〜五日に行われる。例祭には、麒麟獅子舞・神・山車（鉦と太鼓）二基、神輿巡行があり、大栃川河口（浜坂漁業協同組合諸寄支所セリ市場内）に御旅所が設けられる。また、昭和三〇年代までは、四台の芸舞台が繰り出し、それぞれ地区民による歌舞伎（芝居）などの芸を競った。



● 諸谷山龍満寺

龍満寺は、元天台宗の寺として創建され、慶長九年（一六〇四）曹洞宗に改宗された。代々高僧を輩出しており、禅道場の中でも「馬北（北佐馬）」の鬼道場として、全国にも知られていた。文政三年（一八二〇）年伯州橋津浦直乗船頭孫七船が諸寄沖で難破した際、亡くなった水主を弔い、土葬された記録が残されているが、どこに埋葬されたか、は不明である。



● 北前船係留杭跡

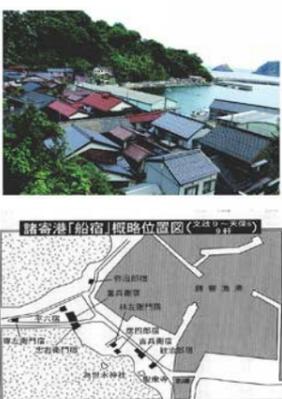
諸寄港には、北前船を港内に係留するための係留施設が残っている。岩に「丸型」や「正方形」に穴を開けたものや、「めぐり型」と呼ばれているドーム型に岩を繰り抜いたものなど、様々である。



● 諸寄港の船宿・廻船問屋地区

海が荒れたときや風が無い場合に利用したのが、風待ち・潮待ち港である。多くの北前船寄港地では、廻船問屋が「船宿」も

兼ねていた。諸寄港には、文政九年（天保六年）までに九軒の船宿があったことが知られており、その廻船問屋兼船宿は、為世永神社の下、川中町・山根町内にあったようである。また、諸寄地区の川中町・山根町・下ノ町地区にも、廻船問屋の母屋や蔵が多数残っている。



● 北前船「船絵馬」

神仏への祈願や祈願成就のお礼に奉納するのが「絵馬」で、「船」の絵を書いて奉納したのが、「船絵馬」である。為世永神社には、五枚の船絵馬が奉納されている。現在は、彩色保護のため、諸寄地区内の八坂神社社務所祈願所内に掲げられている。



● 北前船の取引商品

「動く総合商社」と呼ばれた「北前船」。諸寄の北前船は、石州浜田外ノ浦の記録を見ると、上りの売り商品は「米」で買い商品は「鉄」。下りの売り商品は「塩」で、下りの買い商品は、「焼物」である。



● 諸寄の屋号

諸寄には、北前船により瀬戸内や日本海沿岸など、全国の北前船寄港地から諸寄に移り住んだ人たちがいる。現在、呼ばれなくなりつつある諸寄地区内の屋号で、その家の出身地がわかる。瀬戸屋（日浦）・讃岐屋（宮本）・網干屋（藤田）・隠岐屋（田中）・山形屋（石塚）・塩飽屋・土佐屋（宮川）・因幡屋（山崎）・紀伊屋（上島）・石見屋（日浦）などの屋号がある。

● 引き札

引き札は、現在の広告・チラシや新年の曆にあたる。図柄も廻船・洋式化していく船・汽船・運送業の基地としての港・倉庫・陸上交通の発達・汽車など、明治期に近代化していく日本の社会情勢を知ることが出来る。



● 諸寄 駅

古くより「雪の白浜」として知られていた諸寄港は、昭和の初め、久邇宮家が夏の避暑に來られるようになり、昭和六年（一九三〇）から仮駅舎として、その後、昭和十三年（一九五五）には一般駅に昇格した。久邇宮家の地元での受け入れをしたのが、廻船問屋「中藤田家」「東藤田家」である。